

しきねんせんぐう おきひ  
■式年遷宮と御木曳き

伊勢の内宮・外宮では、20年に1度新しい神殿を造り、御装束や神宝を新しくします。これを式年遷宮と呼んでおり、神宮最大の祭りです。

伊勢の「御木曳き」行事は、1966（昭和41）年に、国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されています。

遷宮に使用される御用材を内宮・外宮へ運搬する行事を「御木曳き」といい、遷宮の数年前に行われます。内宮へは五十鈴川を利用することから「川曳」、外宮へは陸路を利用することから「陸曳」と呼ばれています。（教材「三重の文化」P52より）



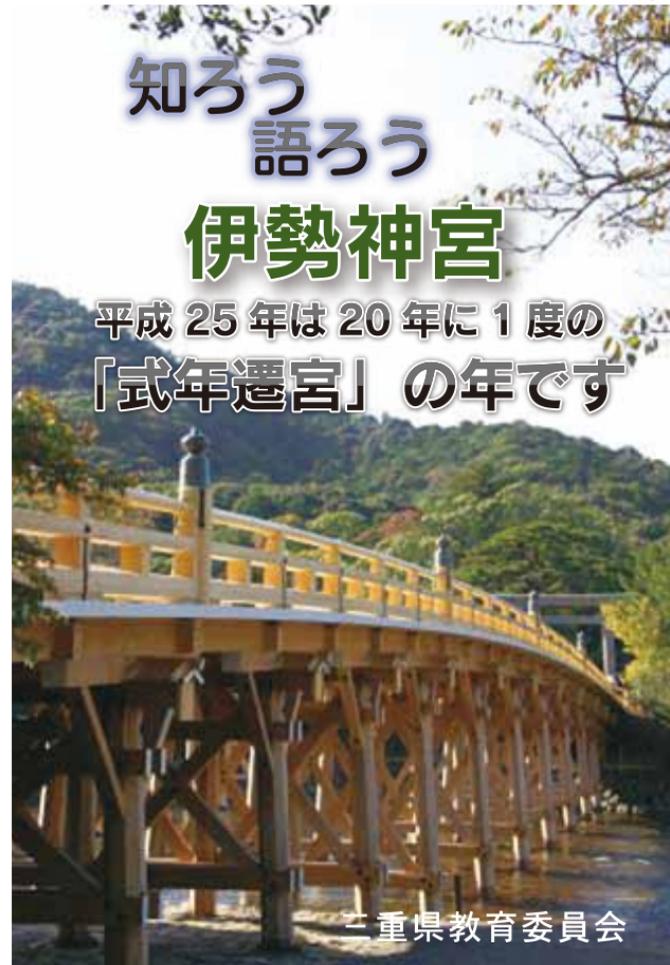
川曳  
じんぐう しちようていきよう  
(神宮司庁提供)



陸曳  
ごせんぐうたいさく  
(御遷宮対策事務局提供)



三重県教育委員会  
平成25年7月 Vol.1



三重県教育委員会

いせじんぐう  
■伊勢神宮

伊勢市民だけではなく、日本全国の人々から「お伊勢さん」として親しまれている伊勢神宮には、年間約800万人という人々が訪れています。

現在の伊勢は、この神宮の門前町として発展してきました。古くは西行も「何事のおはしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼるる」と和歌に詠んでいます。江戸時代には「おかげ参り」という集団参詣が流行し、1日に20万人以上が伊勢をめざしたと言われていました。

(教材「三重の文化」P52より)

ひとくちメモ

伊勢神宮は、正式名は神宮といい、内宮と外宮を中心とする125宮社の総称です。内宮にはあらゆる命を育む太陽にもたとえられる天照大御神が祀られ、外宮にはお米をはじめ衣食住やすべての恵みの守護神とされる豊受大御神が祀られています。外宮をお参りした後に、内宮に行って両宮にお参りするのが古くからの参拝順です。

(三重県観光キャンペーン関係資料より)